

# SDGsに貢献する事業を知財視点から支える

会社名 大静テクノ株式会社  
 所在地 静岡県駿東郡長泉町本宿291-1  
 従業員 10名  
 資本金 1,000万円  
 売上高 1億7千万円(2020年)  
 業種 高圧ガス容器くず化処理



大静テクノ株式会社

## 支援を受けるにあたって掲げた事業上の目標

Before

- 残ガスを利用する事業として、コインランドリー事業、ベーカリー事業、メロン栽培事業等を進めてきた。
- 今後、残ガスを利用した事業をさらに創出・強化していきたい。

## 支援を受けてできるようになったこと

After

- 事業戦略・計画の重要性を再認識し、堅実な事業展開を図れるようになった。
- 各事業の中に存在する自社の知財を明確化することができ、追加の出願を実施する等、事業と知財の関係性を理解したうえで実践できるようになった。

## 今後の事業展開の展望

Future

- 各事業について、知財面からの手当てを的確に行いながら、さらに事業を拡大させていく。
- SDGsへの貢献も意識しながら、当該分野におけるリーディングカンパニーとしての存在感を高めていく。

## 重点支援を受けた事業や商材



廃ボンベのくず化処理過程で回収される残ガスを利用し、コインランドリー事業やベーカリー事業、メロン栽培事業等を展開している。具体的には、残ガスをエネルギー源とすることによって、コインランドリーやベーカリーの運営、温室の暖房活用等に役立てている。

当該事業に関連して、長泉町(静岡県)との間で災害時等における協力を行う協定を締結する等、公共分野にも広がりを見せてきている。



## 重点支援を実施するにあたって整理した課題

取り組んだ課題	課題に取り組んだ背景・理由
事業戦略の策定	残ガス利用事業を拡大していくにあたり、明確な事業戦略・計画を策定しておく必要がある。
知財戦略の策定	残ガス利用事業の拡大にあわせて、自社の知財戦略を整備しておく必要がある。
契約整備	残ガス利用事業を進めていくにあたり、必要な契約を整理し、的確に締結できるようにしておく必要がある。
新規事業創出	残ガス利用を基盤とした事業アイデアを創出し、事業化へ結び付けていく必要がある。
ブランディング	共同開発成果等を実装すべく、出口戦略を明確にしながらブランディングも進めていく必要がある。



## 重点支援を通じて受けた支援と支援を通じてできるようになったこと

支援を受けた事項	支援を通じてできるようになったこと	活用専門家
事業計画作成支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な数値をもとにした事業計画の策定。</li> <li>外部環境変化を踏まえた事業計画の策定・改良等。</li> </ul>	弁理士 中小企業診断士 ブランド専門家
知財体制整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>親会社を含め、知的財産に対する意識が高まった。</li> <li>自社に存在する資源を知的財産として捉えられるようになった。</li> <li>重要な情報の開示もしくは秘匿に対する判断基準を理解。</li> <li>特許や商標等について、事業上の必要性を踏まえて出願検討を実施できるようになった。</li> </ul>	弁理士 中小企業診断士 ブランド専門家
ブランディング支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>注力する事業や商品・サービスとネーミングの考え方を習得。</li> <li>ロゴ・ネーミングについて商標登録出願の必要性を理解。</li> </ul>	弁理士 中小企業診断士 ブランド専門家

## 支援チーム紹介

リーダー専門家: ブランド専門家 蔭山尊

活用専門家: 弁理士、中小企業診断士

知財総合支援窓口担当者: 静岡県知財総合支援窓口 中村 宏之

PO(プログラムオフィサー): 中澤 俊彦